

○今月の病害虫発生状況○

- ・炭疽病の発生は平年並みで、うどんこ病及び萎黄病の発生は少ないです。
- ・ハダニ類及びコナジラミ類の発生は少ないです。
- ・ハスモンヨトウの本ほにおける幼虫発生はやや少なく、フェロモントラップの成虫誘殺数はやや多いです。

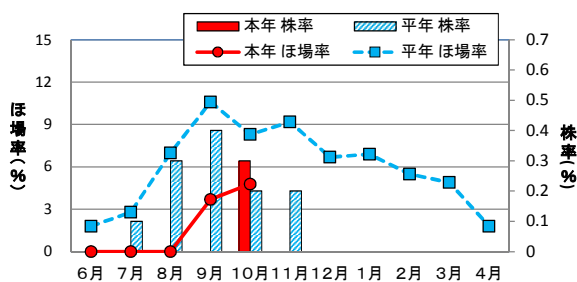


図1 炭疽病発生ほ場率・発生株率の推移

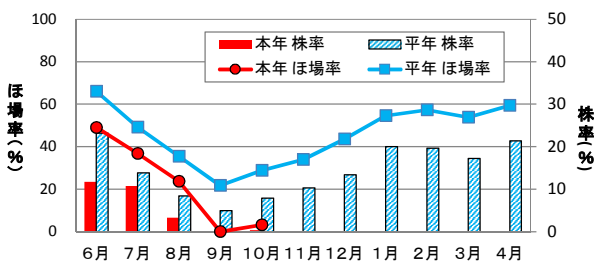


図3 ハダニ類発生ほ場率・発生株率の推移

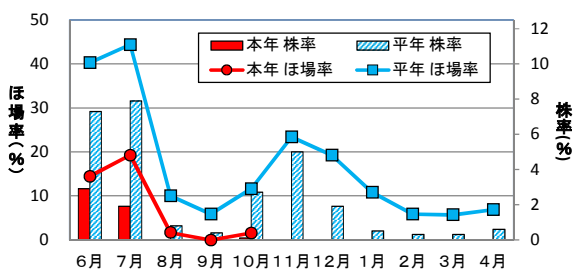


図2 うどんこ病発生ほ場率・発生株率の推移

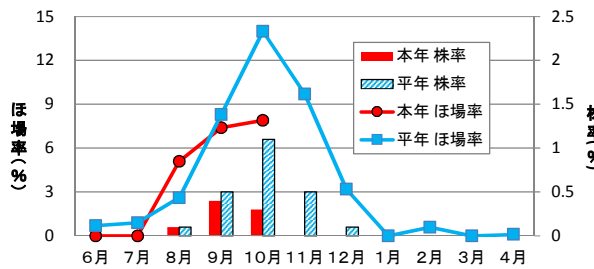


図4 ハスモンヨトウ幼虫発生ほ場率・発生株率の推移

○今月の技術情報（技術指導班）○（10月）

・現在の病害虫の発生は、平年並から少ない状況となっています。育苗期には炭疽病、萎黄病の発生が見られました。

・向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込みで、マルチングや保温開始に伴い、これらの病害が再度発生する恐れがあります。病害を発見した場合は、直ちに抜取り処分をしてください。

・害虫は、保温開始までの防除を重点に行いましょう。特に、天敵を導入するほ場は、農薬の影響日数を考慮しながら、天敵導入前の防除を徹底しましょう。

・育苗期は、高温の影響により生育が停滞したことで、株の充実不良が見られました。定植後の活着はおおむね順調でしたが、9月の日照不足の影響により葉の展開が緩慢となっています。株にできるだけ光を当てて光合成を促進させ、しっかりとした株を作ることが重要です。



写真1 炭疽病・クラウンの病徴



写真2 ハスモンヨトウ中齢幼虫